

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第2週（1月10日～1月16日）

今週のコメント

～感染性胃腸炎～ 手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎 増加」

第2週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,724例であり、前週比23.2%増であった。

定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症・手足口病、突発性発しんの順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ7.35、0.32、0.25、0.25、0.24である。

感染性胃腸炎は前週比30%増の1,447例で、大阪市南部10.58、南河内10.44、泉州9.65、大阪市西部8.40、中河内8.00であった。

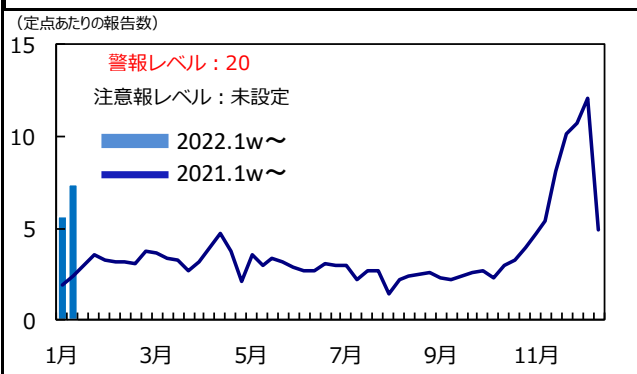
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は19%増の64例で、中河内0.90、大阪市南部0.68、南河内0.44である。

RSウイルス感染症は20%減の49例で、大阪市北部0.93、大阪市東部0.86、大阪市西部0.60であった。

手足口病は29%増の49例で、三島0.69、中河内0.55、泉州0.45である。

インフルエンザは5例、定点あたり報告数は0.02と少ない状態が続いている。

感染性胃腸炎



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

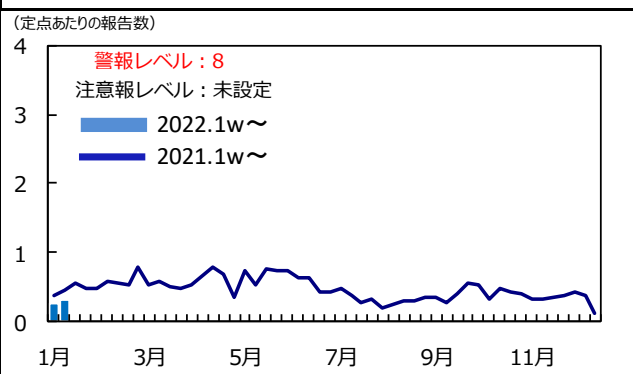


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第2週1月10日～1月16日）

第2週の順位	第1週の順位	感染症	2022年 第2週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2021年 第2週の 定点あたり 報告数	2022年第2週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	7.35	30%増	2.34	2歳_19%
2	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.32	19%増	0.45	5歳_16%
3	2	RSウイルス感染症	0.25	20%減	0.17	1歳_33%
3	6	手足口病	0.25	29%増	0.01	1歳_29%
5	4	突発性発しん	0.24	0%増	0.31	1歳_44%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.02	25%増	0.02	1歳未満, 2歳, 5歳, 8歳, 15-19歳,_20%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

第2週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～ 基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

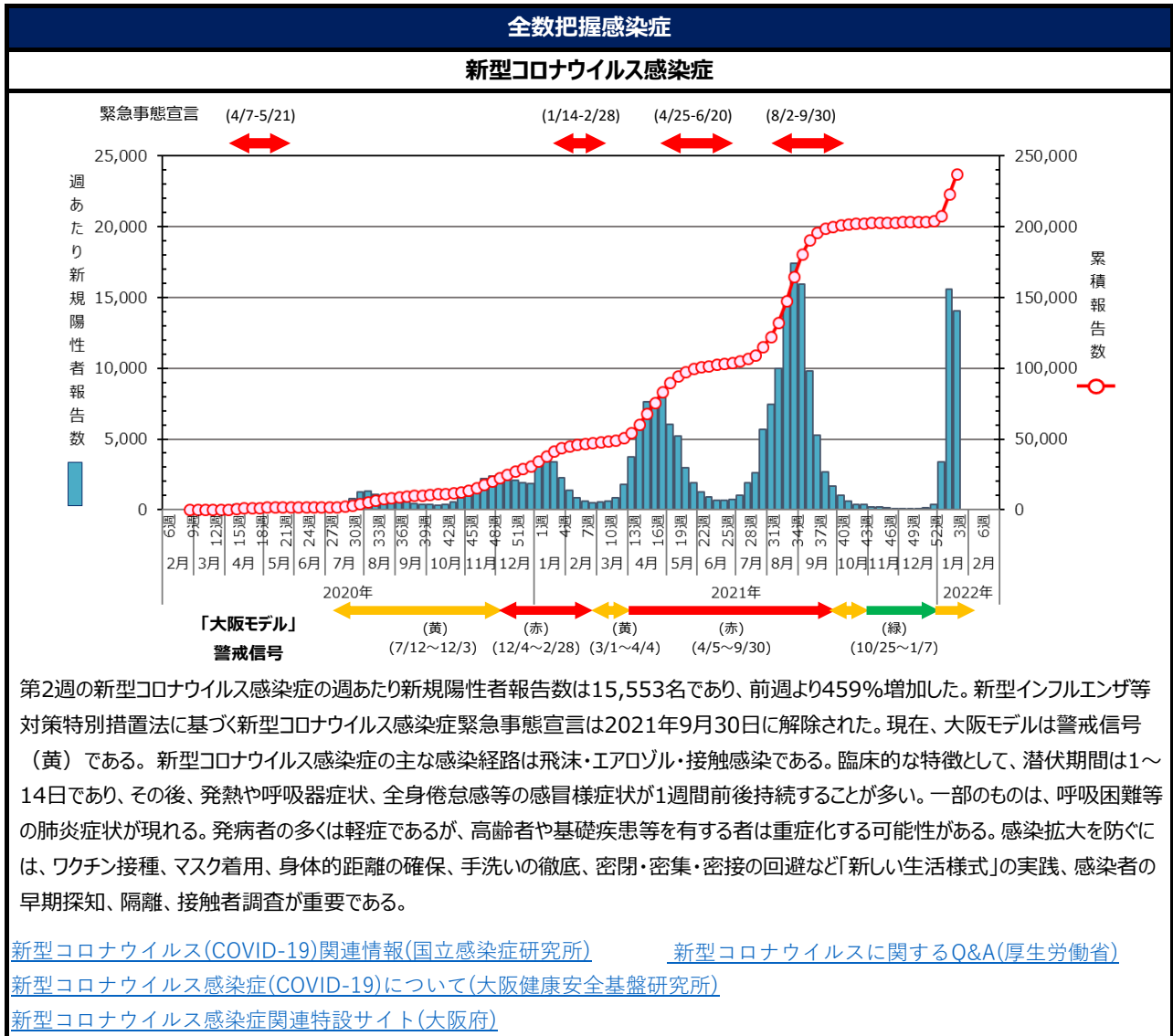


表2. 大阪府全数報告数（2022年 第2週1月10日～1月16日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内							府内累積報告数	
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州		大阪市
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2					1			1	6
	後天性免疫不全症候群	1								1	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	1			1						2
	梅毒	1	1								7
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	15,553	2020年1月以降累計							222,860	
結核 (2021年11月分)	結核 新登録患者数：81名	(内 肺・喀痰塗抹陽性 30名) (府内累積報告数 1,065名、内 肺・喀痰塗抹陽性 412名)									

(2022年1月18日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。](#)